

「進行度にかかわらず、どの時点のがん体験でも、共有することで啓発することができます。」

肺がん5年生存者



肺がん患者の多くは、自分自身や他の人のために、肺がんをコントロールして、生活をよりよくするための方法を模索します。これが「アドボカシー(啓発)」活動です。あなた自身や、あなたの愛する人が肺がんにかかっているかどうかに関わらず、あなたの発言と努力で状況を変えることができます！啓発者は、患者支援の源であり、肺がんに関する認識を高めることに役立ち、そして希望を提供します。

なぜ私は啓発者であるべきですか？



- 肺がんに関する情報を提供し、他の患者、介護者、医療従事者、および一般の人々とあなたの経験を共有する。
- 人は誰でも肺がんにかかる可能性があるという体験を共有することで、肺がんに対する不公平な思い込みを断ち切る手助けとなる。
- 肺がん治療を継続的に前進させるための肺がん研究と、治療オプションへの資金を募る。
- 患者からの視点を提供して、研究の方向性に役立てる。
- 他の肺がん患者の支援やリソースとなる。

関わるには？

- LCAM.orgであなたの体験を共有する。
- 自分の体験を、オンライン、メディア、個人的に共有する方法を学ぶ。
- 患者グループとオンラインやソーシャルメディアで結びつける。
- 肺がんに関わる資金を募ったり、啓発する地域イベントに参加する。
- 各種啓発活動(政治、研究、患者サポート)について学ぶ。
- 肺がん研究について話す集会に出席するか、啓発トレーニングを提供する。



あなた自身に関わらずに、他の人が手助けしてくれることは期待できません。

啓発グループのリストを見たり、あなたの体験を共有するには、**LCAM.org** を参照ください。

#HOPELIVES
より多くの研究。より多くの生存者。

